１　水産総合研究所の沿革と組織

（１）位　　置

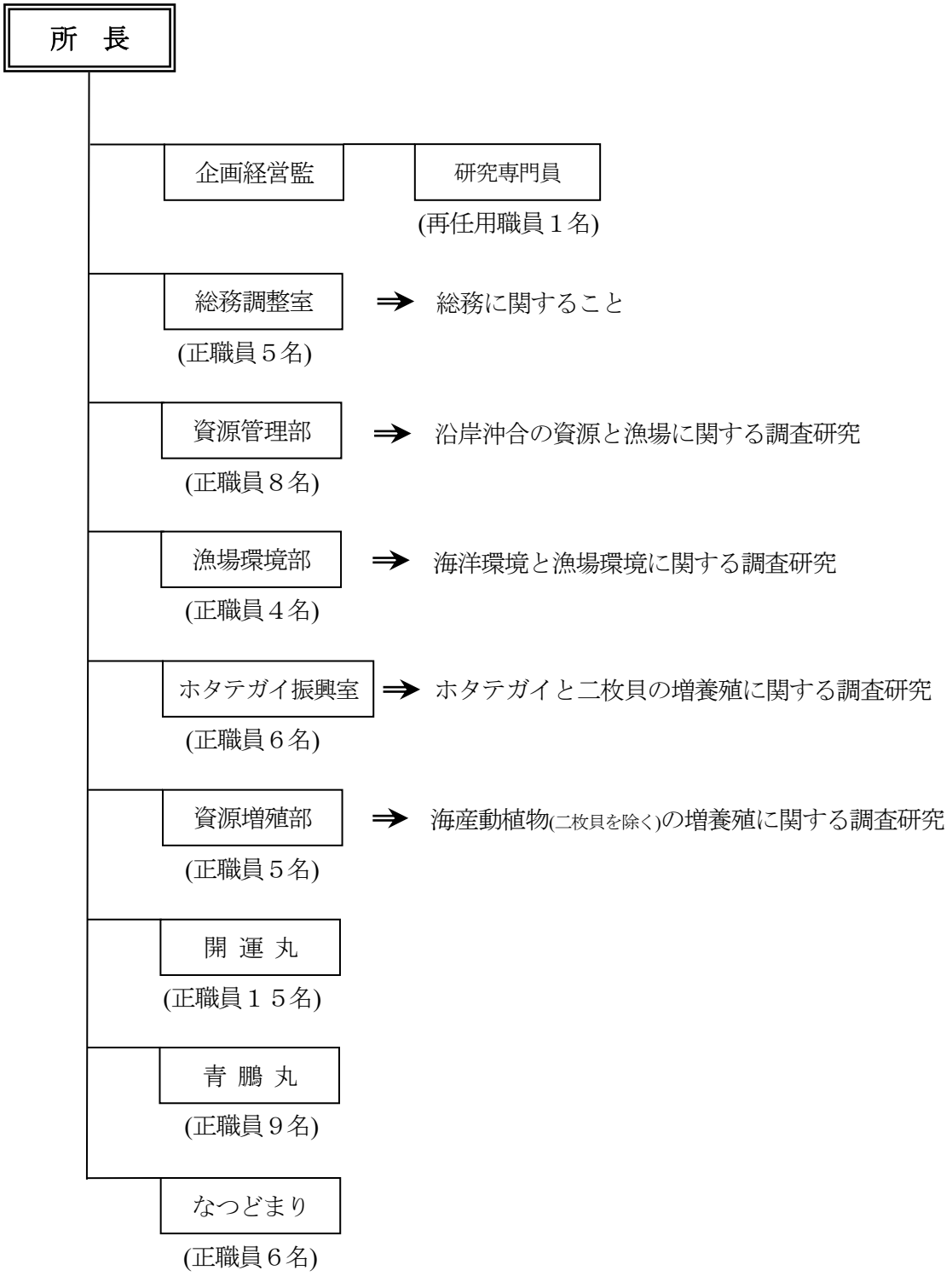
東津軽郡平内町大字茂浦字月泊１０

（〒039－3381　TEL 017－755－2155　FAX 017－755－2156）

（２）沿　　革

明治３３年２月	青森県水産試験場設置認可（農商務大臣）
明治３３年４月	青森市大字大野字長島青森県庁構内に設置し事務開始
明治３４年	相坂鮭鱒人工ふ化場を上北郡藤坂村に設置
大正１３年	本場を八戸市湊町に移転
昭和２３年	黒石養魚場を南津軽郡中郷村に設置
昭和２３年	本場を西津軽郡鰺ヶ沢町に移転、庁舎新築
昭和２４年	陸奥湾分場をむつ市に設置
昭和２５年	黒石養魚場を黒石市大字石名坂に移転
昭和２７年	陸奥湾分場が陸奥湾水産増殖研究所と改称され独立機関となる
昭和４３年	水産増殖研究所を平内町茂浦に移転し、水産増殖センターと改称する
昭和５１年３月	鰺ヶ沢町大和田に水産試験場新庁舎を竣工
昭和５６年４月	十和田市に青森県内水面水産試験場を設置する（相坂、黒石両養魚場及び内水面関係業務を移管）
昭和５８年２月	青森県水産試験場漁業研修センター竣工
平成　５年	水産増殖センター新庁舎竣工
平成１２年４月	水産試験場創立１００年
平成１３年３月	八戸市ポートアイランドに漁具倉庫新築
平成１５年４月	試験研究機関の統合により青森県水産総合研究センターと改称され、下部機関として増養殖研究所、内水面研究所が配置となる
平成１８年４月	水産総合研究センター庁舎を鰺ヶ沢町舞戸町に移転
平成２１年４月	青森県水産総合研究センターと増養殖研究所を統合し、地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所となり、庁舎を平内町へ移転

（３）機　　構（2024 年度）



事務所：３１名
試験船：３０名
　計　：６１名

（4）施　　設

① 土　　地	２０，９７１．３０㎡		
② 建　　物	５，４６１．７４㎡		
・管理研究棟	鉄筋コンクリート造	１部２階建	１，７３５㎡
・実験機械棟	鉄骨造	平屋建	１，１２２㎡
・飼育実験棟	〃	〃	１，５６３㎡
・研修宿泊棟	木　造	２階建	２７１㎡
・作　業　棟	〃	平屋建	３２４㎡
・取水ろ過棟	鉄筋コンクリート造		１０３㎡
・倉　庫　棟	木　造	平屋建	１０８㎡
・発電機棟	鉄筋コンクリート造	〃	５９㎡
・車　庫　棟	鉄骨造	〃	７４㎡
・油　庫　棟	〃	〃	８㎡
・そ　の　他			９５㎡

③ 主な施設

・海水取水ポンプ	７．５KW	３台
・逆洗ポンプ	１８．５KW	１台
・ろ過槽（重力式）	８０トン／時	３基
・ろ過水貯水槽	１２０トン	１基
・ろ過貯水タンク	９トン	１基
・屋外コンクリート水槽	１２トン：６面、１０トン：８面	
・親魚棟コンクリート水槽	３０トン：１面、２０トン：１面、１０トン：４面	
・屋内ＦＲＰ水槽	３０トン：２面、１０トン：２面、５トン：３面	
・ブ　ロ　ワ　ー	３．７KW：２台、５．５KW：１台	
・発　電　機	５００ＫＶＡ	１台
・海水温度制御装置（アクアトロン）	温海水　５系統	３５トン／時
	冷海水　４系統	６トン／時
・海況自動観測装置（ブイロボット）	３基	

④ 試　験　船

・開　運　丸	１９９トン	ディーゼル	１，１７６KW（鋼船）
・青　鵬　丸	６５トン	ディーゼル	１，０００ＰＳ（鋼船）
・なつどまり	１９トン	ディーゼル	６１０KW（軽合金）

２　職員名簿

部　署	職　名	氏　名
	所　長	吉田　達
	企画経営監	伊藤　欣吾
	総括主幹研究専門員	野呂　恭成
総務調整室	室　長	木村　博行
	主　査	石山　太一朗
	主　事	田向　遥香
	技能技師	上村　健
	技能技師	三戸　俊和
資源管理部	部　長	今村　豊
	研究管理員	和田　由香
	主任研究員	田中　友樹
	主任研究員	村松　里美
	主任研究員	杉浦　大介
	主任研究員	松谷　紀明
	研究員	佐藤　大介
	研究員	石黒　智大
漁場環境部	総括研究管理員（部長事務取扱）	高坂　祐樹
	主任研究員	三浦　太智
	主任研究員	扇田　いずみ
	研究員	長野　晃輔
ホタテガイ振興室	室　長	吉田　雅範
	総括研究管理員	山内　弘子
	研究管理員	小谷　健二
	主任研究員	木村　郷
	主任研究員	遊佐　貴志
	研究員	色川　七瀬
資源増殖部	総括研究管理員（部長事務取扱）	髙橋　進吾
	研究員	中山　凌
	研究員	髙橋　拓実
	研究員	長内　万葉
	研究員	西　穂高

部　署	職　名	氏　名
開運丸	船　長	笹原　一雄
	機関長	佐藤　正樹
	通信長	金屋　富明
	一等航海士	小平　泰史
	一等機関士	高屋敷　一成
	一等機関士	榊　修悦
	二等航海士	星野　元紀
	二等機関士	磯沼　純一
	甲板員	須藤　蓮登
	甲板員	寺井　舜哉
	甲板員	長谷川　海斗
	甲板員	佐々木　斗吾
	甲板員	堀越　翔太
	機関員	清水　ひかる
	司厨員	加福　文二
青鵬丸	船　長	本堂　洋一
	機関長	多田　繕伸
	一等機関士	肴倉　厚雄
	二等航海士	今泉　健介
	甲板長	北嶋　雄大
	甲板員	川口　翔平
	甲板員	安田　雄哉
	機関員	大坂　拓巳
	司厨員	阪﨑　勝
なつどまり	船　長	八木橋　憲一
	機関長	逢坂　健幸
	一等航海士	小笠原　大郎
	甲板員	佐々木　惇大
	機関員	笹原　颯真
	主任海事専門員	長津　司
事務所：３１名		
試験船：３０名		
計　：６１名		

３　歳出予算執行状況

単位：千円

事業種目	事業内容	決算額
法人管理運営費支出		
管理運営費支出		
法人調整費支出	法人全体の調整(各種委員会等)	317
イノベーション創出型研究推進費支出		50
施設整備費支出	研究機器、施設の整備	3,629
水産総合研究費支出		
管理費支出		
一般管理費(交付金)支出	研究所の管理運営費(交付金分)	31,161
試験船警備費支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」の巡回警備業務委託料	2,803
運行管理費支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」の運行管理費	25,007
上架修理費支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」の維持修繕費	29,007
船舶保険料支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」「なつどまり」の船舶保険料	4,844
なつどまり運行管理費支出	試験船「なつどまり」の運行管理費	14,457
アクアトロン施設運営費支出	アクアトロンの設備保守管理	17,330
陸奥湾海況自動観測システム管理費支出	陸奥湾海況自動観測システム運営費	11,330
非常勤職員等経費支出	非常勤労務員の賃金等	6,288
船舶修繕費支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」の維持修繕費	9,535
着水ドローン修理費支出	着水ドローンの修繕費	183
陸奥湾海況自動観測システム更新整備事業費支出	陸奥湾海況自動観測システム更新工事の実施設計委託費	29,998

単位：千円

事業種目	事業内容	決算額
水総研業務費支出		
資源管理研究費支出		
重要魚類モニタリング調査事業費支出	底魚類の資源評価のための基本情報のモニタリング	668
ブリの来遊予測に関する調査研究事業費支出	ブリの来遊予測手法の開発	1,000
試験船のビックデータを活用した水産資源の解析に関する研究事業費	試験船のビックデータを活用した水産資源の解析に関する研究	200
漁場環境研究費支出		
イカ類漁海況情報収集･提供事業費支出	スルメイカの漁期前調査及び漁期中の回遊状況等の情報提供	288
陸奥湾海況情報提供事業費支出	海況情報データ提供及び情報交換	303
機械学習を用いた下痢性貝毒予測の技術に関する研究	陸奥湾内におけるホタテガイの下痢性貝毒の毒値予測及び解析	200
ホタテガイ研究費支出		
ホタテガイ増養殖安定化推進事業費支出	天然採苗予報調査、増養殖実態調査	1,071
デジタル技術を活用した養殖ホタテガイの生産性向上に関する試験･研究開発費支出	「ほたてナビ（仮称）」をHPに構築後、データの公開、漁業者へのリアルタイム情報	703
資源増殖研究費支出		
マツカワの海面養殖技術開発試験事業費支出	量産技術及び効率的な養殖技術を開発	818
魚類防疫支援事業費支出	海産魚類の防疫巡回指導	60
十和田湖ヒメマス環境重点調査に関する研究事業費支出	十和田湖ヒメマス減少要因解明のための水質等環境データの収集分析	100
研究費交付金事業費支出		
資源管理に必要な情報提供事業費支出	日本海、太平洋、津軽海峡の海況情報提供	675
海面養殖業高度化事業費支出	ホタテガイのへい死原因解明	800
放流効果調査事業費	栽培漁業推進のための放流技術開発試験	605
青鵬丸代替調査移行実証試験事業費支出	青鵬丸が実施する調査を民間漁船が代替できるかの調査実証	3,760
陸奥湾ホタテガイ総合戦略事業に関する試験･研究開発費支出	ホタテガイの安定生産技術、高水温に対応した養殖技術、効率的な作業機械･資材開発技術の試験、研究開発	18,751
日本海の「つくり育てる漁業」技術高度化事業支出	日本海沿岸における増養殖技術の高度化	300
ナマコ資源増大チャレンジ調査事業支出	ナマコ資源増大に向けた、漁獲物調査	124
「つくる、育てる、稼げる」あおもりの漁業創出事業（マツカワ）	マツカワの養殖指導、ヒラメ、マツカワの魚病検査	119

単位：千円

事業種目	事業内容	決算額
水総研受託研究費支出		
水総研受託研究費支出		
藻場造成効果調査委託事業費支出	水産基盤整備事業により整備した漁場の効果調査	8,499
資源評価調査委託事業費支出	本県周辺海域での利用可能な魚種の資源量を評価するための関係資料整備	33,676
資源管理基礎調査委託事業費支出	県資源管理指針等に基づき、適切な資源管理推進のための調査	2,995
国際漁業資源評価調査（まぐろ・さめ）委託事業費支出	国連海洋法条約に基づき、マグロ・サメ類の科学的データを完備するための調査	867
あかいか資源調査事業費支出	太平洋沖合のアカイカ資源の動向及び漁場形成要因解析のための調査	26,391
大型クラゲ出現調査及び情報提供委託事業費支出	大型クラゲ出現情報及び情報提供	1,190
車力マコガレイ種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのマコガレイ種苗生産試験	385
野辺地マコガレイ種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのマコガレイ種苗生産試験	385
（繰越）藻場造成効果調査委託事業費支出	水産基盤整備事業により整備した漁場の効果調査	24,248
水総研受託事業費支出		
水総研受託事業費支出		
新規漁業就業者対策事業費支出	漁業の基礎知識、技術を身につけるための賓陽塾の運営	1,174
漁業公害調査指導事業費支出	陸奥湾の漁場環境保全のための監視調査	354
温排水モニタリング調査事業費支出	東通原子力発電所の温排水による影響調査	784
EU向け輸出ほたて安全対策事業費支出	対EUホタテガイ生産海域における毒素産出性プランクトン調査	761
貝毒プランクトンモニタリング調査事業費支出	国内向け二枚貝の貝毒及び貝毒原因プランクトンのモニタリング	2,654
漁船活用型資源情報収集等支援事業費支出	漁獲量データの収集及び情報提供	210
青森県量子科学センターの装置等量子ビーム活用研修評価事業費支出	青森県量子科学センターの装置等量子ビーム活用研修に要する経費	90

※職員人件費については産業技術センター本部予算で一括計上
※他の研究所から配分替えを受けて執行した事業費を含む
※配分替えにより他の研究所で執行した事業費を除く

4 調査、研究報告及び資料・情報等の発行（2024 年）

（1）公刊した報告書等

報 告 書 名	発行年月	備　考
2023 年度青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告	2025 年 7 月	発行は 2025 年度
2024 年度青森県産業技術センター水産部門事業概要年報	2025 年 9 月	発行は 2025 年度

（2）提供情報

情　報　名	期間及び回数
ウオダス漁海況速報　No. 2198～2233	2024 年 4 月～2025 年 3 月（36 回）
陸奥湾海況情報　No. 1490～1540	2024 年 4 月～2025 年 3 月（51 回）
ホタテガイ採苗速報　No. 773～792	2024 年 4 月～2025 年 3 月（20 回）
ホタテガイ養殖管理情報　No. 224～233	2024 年 4 月～2025 年 2 月（10 回）
付着生物（ユウレイボヤ等）ラーバ情報　No. 145～163	2024 年 7 月～2025 年 3 月（19 回）
貝毒発生状況等速報	2024 年 4 月～2025 年 3 月（30 回）
陸奥湾の水温（東奥日報紙）	2024 年 4 月～2025 年 3 月（毎日）
ウスメバル資源量予測について	2024 年 5 月（1 回）
陸奥湾湾口海域のイカナゴ幼魚（コウナゴ）分布調査結果について	2024 年 6 月（1 回）
陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について	2024 年 7 月（1 回）
2024 年日本海カレイ類新規加入量調査結果について	2024 年 9 月（1 回）
青森県日本海沖合のハタハタ分布調査結果について	2024 年 9 月（1 回）
ヒラメ稚魚着底量調査結果（日本海、太平洋）	2024 年 10 月（1 回）
イカナゴ類夏眠場調査について	2024 年 10 月（1 回）
2024 年漁期のハタハタ見通し	2024 年 12 月（1 回）
陸奥湾のマダラ漁獲状況について	2025 年 3 月（1 回）

（3）青森県水産研究情報　水と漁

発行番号	発行年月
第 46 号	2024 年 7 月
第 47 号	2024 年 12 月
第 48 号	2025 年 3 月

(4) 発表論文等

①学会等での発表

1）長野晃輔・扇田いずみ・高坂祐樹：LightGBM を活用したホタテガイの下痢性貝毒予測と SHAP 値による特徴量解析，2024 年日本水産学会秋季大会，京都市(2024.9)
2）杉浦大介・三浦太智・小谷健二・吉田雅範・傳法利行・髙橋宏和・竹谷裕平：青森県太平洋におけるイカナゴ類の資源動向について，2024 年日本水産学会東北支部大会，秋田市(2024.10)
3）石黒智大：津軽海峡東部海域におけるアイナメの成長，成熟および婚姻色，2024 年日本水産学会東北支部大会，秋田市(2024.10)
4）石黒智大・渡井幹雄：卵仔魚の分布から推定された我が国太平洋沿岸におけるチゴダラの産卵場と輸送過程，2024 年水産海洋学会研究発表大会，静岡市(2024.11)
5）横内克巳・奥西武・由上龍嗣・日高敏隆・東屋知範・宮島侑也・堀之内祐介・板谷和彦・長野晃輔・扇田いずみ・小野寺光文・村上泰宗・増田義男・三浦瑠菜・白土遼輝・荒井将人・長谷川拓哉・辻康平・大畑聡，三科智輝・海野幸雄・中島廉太朗・石川陽子・清水重樹・関信一郎・渋谷駿太・山田和也：2010-2023 年の太平洋沿岸における水温とマサバ定置網漁期の変化，2024 年水産海洋学会研究発表大会，静岡市(2024.11)
6）奥西武・横内克巳・由上龍嗣・上村泰洋・中野渡拓也・阿部祥子・谷津明彦・源浩輔・長野晃輔：機械学習モデルによる東北近海のマサバ漁場予測，2024 年水産海洋学会研究発表大会，静岡市(2024.11)
7）松谷紀明：海域を越えて類似する定置網マダラの全長組成，令和 6 年度東北ブロック底魚研究連絡会議，八戸市(2025.3)
8）松谷紀明：海域を越えて類似する定置網マダラの全長組成，令和 6 年度東北ブロック底魚研究連絡会議，八戸市(2025.3)

②その他の投稿

1）宮崎息吹・安永 響・阿部広和・鷲尾正彦・杉本 匡・中山 凌・福森啓晶：カツラガイ科腹足類ネジヌキの浅虫における生貝の産出および浅虫水族館所蔵標本に基づく陸奥湾での分布記録，みちのくベントス，**8**，32-37，(2024.4)．
2）福森啓晶・阿部広和・鷲尾正彦・中山 凌：外来種シマメノウフネガイの下北半島北部における記録および青森県における腹足類への付着状況，みちのくベントス，**8**，38-41，(2024.4)
3）石黒智大・成松庸二：青森県深浦沖で採集された雌雄同体個体のマダイ．Ichthy，Natural History of Fishes of Japan，**46**，6-10，(2024.7)．
4）石黒智大：青森県津軽海峡東部海域におけるアイナメ Hexagrammos otakii 雄の成熟，水産増殖，**73**，63-66，(2024.10)．
5）石黒智大・渡井幹雄：卵仔魚調査に基づく我が国太平洋沿岸におけるチゴダラの産卵期および産卵場，黒潮の資源海洋研究，**72**，265-272，(2024.10)．
6）石黒智大：津軽海峡東部海域におけるアイナメの生物特性，東北底魚研究，**44**，1-4，(2024.10)．
7）長野晃輔・扇田いずみ・高坂祐樹：LightGBM を活用したホタテガイの下痢性貝毒予測と SHAP 値による特徴量解析，令和 6 年度東北ブロック水産海洋連絡会報，**55**，4-7，(2025.3)．